

論壇

静岡新聞 2026 年 7 月 22 日 付

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

急速な技術革新は経済発展の活力につながるものである。ただ同時に人々の雇用に大きな影響を及ぼすとともに所得格差を広げる原因ともなる。現在進んでいるAI(人工知能)の技術革新では、こうした問題が突きつけられている。

AIの進化によって、これまで人間のやっていた仕事の多くをAIがやってくれる。生産、商流、情報処理、分析などのさまざまな作業を、AIやそれが支えるロボットが担うことで、人手不足は解消し、生産性は大幅に向上するのだ。こうした動きは生産性を高めるものであると同時に雇用に大きな変化をもたらしている。

少し前までは、AIによる生産性の大幅な向上は高齢化による労働力不足を解消する

AIの技術革新と雇用

ものとして期待される面が多かった。ただ、AIの進展のスピードがあまりにも速いことから、AIが人々の仕事を奪うようになり、雇用問題が深刻化し、所得格差が広がることへの懸念が広がっている。

こうした懸念は、18世紀後半から19世紀前半にかけての産業革命の時代の経験に結びついている。蒸気機関などの大きな技術革新が社会の姿を大きく変えた。それ以前には人間の労働力に頼っていた作業の多くを機械が代替してくれるようになった。鉄道や蒸気船が普及して、大量の物資の輸送が可能になった。

こうした技術の変化によって経済成長は加速化し、社会の富は増え続けていった。ただ、その一方で旧来の労働者は、所得を機械に奪われてしまったのだ。「エンゲルスの休止」と呼ばれる現象だが、19世紀前半にかけて労働者への分配割合は50年近く下がり続けた。こうした格差を不満として多くの暴動などが起きた。機械を打ち壊すラッダイト運動なども広がった。資本主義の矛盾を指摘したマルクスの資本論が社会に受け入れられることにもなる。

英国などでは、こうした問題に対応するため、社会保障

制度を強化し、累進税による所得再分配を進めるなど、格差是正を進める制度を強化していった。産業革命は必要だが、それによって生じる格差を是正することが、社会の安定にとつて必要であつたからだ。

AIに話を戻そう。現在AIによって起きている技術革新の変化のスピードは、その規模とスピードにおいて、かつての産業革命をはるかに超えるものとなるかもしれない。産業革命は50年から100年という時間をかけた。AIが世の中で話題になつてからまだ10年もたっていない。この先どのような展開になるか予想は難しいが、少なくとも足元ではその変化のスピードは加速しているように見える。

産業革命を止めることができなかったように、AIの進化を止めることはできない。社会に求められることは、AIによって起こりうる雇用の破壊や格差の拡大など、AIの持つ破壊的な側面にどう対応するのかということだ。産業革命が先進国に社会保障制度の進化を促したように、AIの拡大は人類の新たな社会のあり方の変化を求めていくはずだ。